

事業名

つながる力を育てよう

目 標

子どもたちと保護者・地域の人々が、共同でより良い環境を作り出す作業をする中で、子どもたちのつながる力を育てる

1. 取組の視点

本校区は、「共育のまち伏見」を合言葉として、地域と連携した子育てを先駆的に実施してきた。

その土台の上に立ち、軌道に乗り始めた学校支援地域本部事業の活動を拡大、充実させる方向で取り組んだ。学校支援地域本部事業の活動を地域で決める学校予算事業の中に組み入れ、校区の子どもたちに育てたい力を「つながる力」とスローガン化したので、そのスローガンの下、地域ぐるみの子育てを展開することが重要であると考えた。子どもたちと保護者・地域の人々が、共同でより良い環境を作り出す作業をする中で、子どもたちのつながる力を育てることが望ましい。特に、ボランティアスタッフと連携して、親子清掃活動、ふれあい美化作業（野神公園美化作業など）、通学路の美化作業等を実施するなかで、地域ぐるみの活動を推進することにした。

2. 取組の概要

(1) 野神公園美化作業

伏見中学校生徒会・部活動が、地域自治会と協力して清掃活動をした。



(2) 地域ボランティア美化作業

各校園での園芸作業、花壇作り・通学路の美化作業を実施した。

(3) 二十歳を祝う会の協力

1月9日に二十歳を迎える成人を校区でお祝いをして、次世代の担い手を激励した。

(4) 共育プロジェクト「響」の開催

校区学校関係者（教職員・自治会・少年指導協議会・PTA・同窓会・校区保護司など）が一堂に会して、子どもの様子や地域連携の在り方を話し合った。



3. 成果と課題

校区の子どもたちに育てたい力を「つながる力」と設定し、地域ぐるみの子育てを展開した。

ボランティアの数が増え、さらに活気ある活動が広がりつつある。そして 幼小中のボランティアの活動の連携が深まった。

また、校園でボランティアの活動している状態が、自然で、常態化しつつあるようになってきている。

しかし、ボランティアの方々との話し合いが十分にとれなく、限られた人達の活動になってしまった取り組みがある。コーディネータとの連携を密にし、活動の明確化、活性化をはかる必要がある。

地域の人が校園の活動に参画し、協働できるよう、取り組みを進めたい。

事業名

つながる力を育てよう

目標

みんなの手で、美しく誇りの持てる学校・地域を作り出し、人と人とのつながりを深め、地域と連携した生徒主体の取組の推進をする

1. 取組の視点

みんなの手で、美しく誇りの持てる学校・地域を作り出し、人と人とのつながりを深め、地域と連携した生徒主体の取組の推進を目指した。地域と学校が協力したふれあい行事（ふれあい体育大会、ふれあい文化発表会、ふれあい美化作業）の開催をした。また、地域と連携したキャリア教育やボランティア活動を実践した。特に、図書館ボランティアが充実し、本の整理だけではなく、本の読み聞かせ、コスモス読書会などに広がりを見せた。この活動を通して、ボランティアの人と共に、さらに活気ある活動を広げていきたい。

2. 取組の概要

(1) 学校図書 of 充実

- ① 昼休みに、生徒図書委員と共に、生徒に本の貸し出しをする
- ② ブックカバー掛け等の作業をする
- ③ 生徒図書委員と共にポップ（本の宣伝文）を作成する
- ④ 絵本の読み聞かせをする



(2) 教育環境 of 充実

- ① ふれあい美化作業等で、校内の清掃活動を実施する

- ② ふれあい文化発表会・ふれあい体育大会で校区に開かれた学校づくりを実践する



(3) 学習支援活動 of 充実

- ① 放課後自習室（毎週火曜、金曜）を開催して、学力向上を目指す
- ② ケナフ栽培をして、紙作りの補助をおこなう

3. 成果と課題

私たちの最大の願いは、「子どもたちが地域の中で見守られ、育まれながら、生き生きと楽しく学校に通って来る」ことである。子どもたちの取組を地域で支援しようという機運が高まり、学校が地域の信頼をえるために、あらゆる機会に学校や子どもたちを知ってもらうという地道で根気強い取組を進めた。

校内、校外でボランティアの人が活動している状態が、自然で、常態化しつつある。しかし、ボランティアの方々との話し合いが十分にとれなく、限られた人達の活動になってしまった取組もあった。

学校側のニーズと、ボランティアの思い・熱意を、きめ細かくすり合わせをおこない、活動の明確化、活性化をはかる必要がある。

事業名

出会いと体験から豊かな学びを

目標

様々な人との関わりと体験学習を通して、豊かな学力と主体的に学ぶ意欲を育てる

1. 取組の視点

本校では「笑顔あふれる学校」づくりのために地域の力を生かし本事業に取り組んできた。「お話の会」や図書館ボランティアの年間を通した活動・協力で読書や読み聞かせを身近なものとして定着させてきた。また、学習ボランティアとして地域の方々をお招きし低学年から高学年まで社会科・生活科・総合の時間等様々な教科で学習を進めてきた。地域の方々との関わりを深め身近な地域から学ぶことで興味関心を高め自ら進んで考える力を育てる一助としたい。また、あやめ池を誇りに持つ子どもにしていきたい。

2. 取組の概要

「お話の会」では年間13回もの読書指導に関わっていただいた。読書活動の形態は様ではなく図書館での読み聞かせや、各教室に入り込んで朝読書の時間に紙芝居をしたりして工夫がなされてきた。そのことで低学年だけでなく高学年に



も落ち着いてお話を聞かせることができた。ろうそくを燈して雰囲気作りをしたり落語が入ったりして話の世界に子どもたちみんなが引き込まれていった。

1年生は「大仏の手づくり」をおこなった。地域から講師をお招きし大仏についてのお話を聞いた。「なぜ大仏ができたの?」「なぜあんなに大

きいの?」等々大仏に関わっているいろいろなお話をきいたので子どもたちは興味をもって学習することができた。このようにして大仏に対して十分イメージを膨らませた後、等身大の大仏の手づくりに取りかかった。1年生81人全員が手に絵具を付けてポンポンと手形を押しつけてつけていき、1時間余りで大きな大仏の手を仕上げた。子どもたちは作品を見て歓声をあげ、その大きさに感動していた。大仏の手は体育館で掲示され、参観日にたくさんの人々の前で披露し同時に学習したことを発表会していった。

3. 成果と課題



お話の会は7年前から本校で活動していただいている。同じ内容を踏襲することなく、子どもたちの興味が高まるように、お話の形態を変えたり、事前の準備をしたりし熱心に活動していただいている。職員もお話の会に参加し、より広がりを持つようになってきた。

大仏の手づくりでは、講師の方にお礼のお手紙をお渡しするだけでなく、学習の中で地域の方に学んだことを発表の形にし、たくさんの方々に見ていただいた。地域に返していくことでより意欲的に学習ができたと思う。今後さらに学校と地域との強い関係づくりができるようになっていきたい。

事業名

いきいき わくわく 地域とともに

目標

地域を調べ知ること、地域を守り、地域を愛する態度を養う

1. 取組の視点

本校の校区には多くの地域遺産があり、自然環境にも恵まれている。また、地域の学校に対する関心も高く人材にも恵まれている。

このような立地条件を生かし、各学年に応じて地域遺産や歴史を調べることにより、子どもたちの興味・関心を高め、自ら学ぶ力をつけていきたい。そして、地域の文化遺産を知ることにより地域の伝統や文化遺産を守り、愛する気持ちを育てていきたいと考えている。

また奈良県版レッドデータブックに記載されている「イヌノフグリ」が本校内に自生しているように、自然環境においても里山的な自然が見られる。このことを知り、調べることにより、環境保全の大切さを身につけさせたい。

これらのことや他の学習に関して支援して下さる人材も豊富で、地域の人々のもつ力を知り、自らも地域の一員としての意識をもつようにもしていきたい。

2. 取組の概要

(1) 地域の文化遺産を生かした活動（6年）

- ・校区内の文化財や歴史に目を向け、伏見のいいところを見つける。
- ・「私がすすめる伏見遺産」のポスターを作る。
- ・ゲストティーチャーのお話を聞く。
- ・グループを作り、活動計画を立てる。
- ・伏見遺産発表会を開く。

(2) 地域の自然環境を生かした活動



- ・春の身近な草花について調べ、まとめる。
- ・名前の由来について調べる。
- ・夏の身近な草花について調べ、まとめる。
- ・秋の身近な草花について調べ、まとめる。
- ・伏見小植物図鑑を作る。
- ・伏見の自然について考える。
- ・できることを考え、まとめる。



(3) 読書活動等、学習支援活動

- ・読み聞かせ（毎木曜日、おひさま・ねーランド）
創作絵本「お昼休みの図書室で」の作成
- ・昔遊び大会（1・2年）
- ・邦楽鑑賞（6年）
- ・本の修理（おひさま、PTA有志）

3. 成果と課題

地域の文化遺産に関しては3年以上の学年に応じて行うことができた。特に6年は伏見遺産について年間を通してすすめ充実したものとなり、各自が自信をもちその成果を学校全体に発表することができた。

地域と自然環境に関して、植物については4年を中心としてすすめることができたが、他の自然環境に関して本年度は行うことができなかった。

地域の方々の学習支援に関しては地域の方々の積極的な協力があり、昔遊び大会や邦楽鑑賞など、どの活動も充実したものとなり、子どもたちの力を伸ばすことができた。

事業名

学ぶ楽しさを知り豊かな出会いで自分を高めよう

目標

基礎的基本的な内容の定着をはかり、多彩な体験に出会い主体的にチャレンジすることで、知識をふかめる

1. 取組の視点

「楽しい＝わかる授業」の指導方法を研究し、読書活動・飼育栽培活動や伝統文化にふれあうなど様々な体験を通して、知識を活かし、コミュニケーション力を培い、主体的に行動できる児童を育成する。

2. 取組の概要

栽培活動では、「世話をすうときれいな花が咲くんだよ」少し先の喜びをめあてに体を動かし、汗を流すことで、小さな達成感を味わうことができた。

飼育・栽培活動



町のすてきな人



交流活動では、各学年のねらいや発達段階に合わせて、その道の専門家、ボランティア団体の代表の方々など多種多様な方々をお招きし、共に活動したり、お話を聞いたりした。

昔遊びでは、「童心に戻って教えるというよりも、子どもたちといっしょになって遊んでしまいました。」お手玉では「みんなとても関心をもって素直に話を聞き、上手くなりたくて頑張る姿に感動をしました。」という感想をいただいた。



むかしあそび

清掃活動



清掃活動では、地域の方々や保護者が協働し、学校の環境整備に汗して取り組んでいただきました。子どもたちは、美しくなったことで地域の方々や保護者の温かみある喜びで満たされた。



ぶっくらばこ

ぶっくらばこの活動では、朝読書の時間に「おはなしの出前」、中休みに「読み聞かせと紙芝居」に年間のべ60回お世

話になった。中休みの紙芝居や読み聞かせでは、子どもたちにとっては居心地の良い場所になった。また、教室では、朝の読書タイムに読み聞かせを出前してもらっている。子どもたちは、次々に、お話の中に吸い込まれている。この次は、どんなお話なのか楽しみになってきている。

ぶっくらばこさんでは、本の修理やブッカーかけもしてもらっている。

本の修理やブッカーかけ



「修理に來させていただき、学校の様子もわかり子どもたちとの会話がはずみます。」とのことであった。

3. 成果と課題

飼育・栽培活動などの体験学習や福祉・環境・伝統文化等の交流学习を通して、子どもたちにこころの潤いあるゆとりを与え、自分の責任・役割をはっきりさせ主体的に積極的に取り組むようになってきた。

また、これらの活動を通して地域の優れた指導者の方々とふれ合いをことで保護者、教師以外の大人との関わりが、どれも温かみのあるものばかりで、喜びと充実感で満たされた。

今後もこれらの教育活動で、学校だからできること、家庭や地域でできることを考えて、来年度も子どもたちと地域の方々と共に協働して、活動できるよう計画し、取り組んでいきたい。

事業名

いきいき伏見っ子地域とともに

目標

地域の教育力を生かして体験活動の充実。主体的に活動できる園内環境の充実

1. 取組の視点

- 地域の人々の協力を得て園内環境を整備し、教育内容の充実を図る。
- 地域の人々の協力を得て新しい行事を企画し、教育内容の充実を図る。
- 地域教育力を生かして保護者に幼稚園教育の理解や大切さを知らせる。

2. 取組の概要

① 地域の人々との交流をとおして

年3回高齢者の集い“いきいき広場”に参加し、歌や踊り・ゲームをしています。運動会のリズム「元気にハイヤ・みんなにありがとう」を踊り力強い動きにたくさんの拍手をいただき、子どもたちは「やった。楽しかった。」と充実感を感じることができた。



(いきいき広場で踊ったよ)

丁寧にコマ回しを教えていただいたことで、自分たちで挑戦する姿につながっていった。

② 環境整備の充実

園庭の片隅にあり遊んでいなかった土山の移動を小学校の夢教育プランと合体しボランティアを募った。地域の方々の協力で大きな土山と合体できた。子どもたちはその山に上ったり下りたり土山の土で泥団子作って遊んだ。



(万年青年クラブとコマ回し)

「先生見て、こんなのできた。」「こわさないでおいておいてね」と宝物を扱うように大事になおす姿がみられた。

③ 花壇・畑作り

家の近くに田・畑があってもなかなか見たり触れたりすることができず、実体験に乏しい実態です。そこで園庭に花壇と畑を作っていただき、桜草の苗を植えたり、畑には黒豆の種を植え「こんなに芽がでてきた」「豆ができてきた」と驚き、収穫しました。みんなでいただき「おいしい」と、大喜びだった。現在イチゴの苗を植えています。自分たちで育てたことに喜びを感じることができた。

④ 地域の教育力を生かして

地域の岡澤祥訓先生の「子供の体力について」の講演は保護者に体力と生活リズムを考える機会となり、親子音楽鑑賞会は親子で聞くよい機会となった。

3. 成果と課題

いままで企画できなかったことが、地域の協力で実施することができた。地域の方々にも幼稚園を見直していただき、地域全体で子どもたちを育てることができた。

事業名

園・家庭・地域 笑顔でつなごう手と心

目 標

園・家庭・地域が互いに手を携えながら、互いに心通わせみんなが育ち合う園づくり（幼児の健康な心と体育てを通して）**1. 取組の視点**

自然環境の減少や核家族化が進み、幼児が身近な自然環境や様々な人とかかわる機会が減るとともに、体力の低下や基本的な生活習慣が身につけにくいなどの姿がみられる。本園では、「地域の身近な自然や様々な人とかかわり」「感動体験の積み重ね」「幼児の体力向上」「教育環境の充実」に視点を定め、地域の方々の協力をいただきながら、「豊かな心を持ち、生き生きと活動する幼児」の育成を目指し取組を推進してきた。

2. 取組の概要

○地域の身近な自然や様々な人とかかわり

地域の方を、ゲストティーチャーに迎え、月1回の地域探検や習字の日、菜園活動などを行った。



子どもたちは地域の人に親しみの気持ちをもつとともに、地域のよさや自分とのつながりを感じ始めている。

○感動体験の積み重ね

未就園児親子、園児親子を対象に、カプラワークショップや音楽会を実施した。カプラワークショップでは、たった一枚の小さな板が、子どもだけでなく大人までも夢中にさせ、みんなの創造力をかきたてた。音楽鑑賞会では、間近で聴く楽器の音色に魅了され、体全体で音楽を楽しんでいた。本物に触れ、その感動を親子で共有することができた。

○幼児の体力向上

わくわく触れ合いランドと称し、縄跳び、フープ遊び、グランドゴルフなど、園児同士、小学生、



地域の方々と体を動かしての交流を楽しんだ。また、親子体操教室では、久しぶりの親子のスキンシップに親子ともに笑顔が弾け、体力向上への意識が高まった。

○教育環境の充実

子ども達がたくさんの絵本と出会えるよう、絵本の充実に努めた。また保護者ボランティア協力のもと絵本の整理、分類、ブックカバーかけなどを行い、2学期より週1回親子向けに「絵本貸出」をスタートした。いろいろなお話に親しむとともに、親子の触れ合いにもつながっている。

3. 成果と課題

園に対する保護者の方や地域の方々からの支援が広がりつつある。また、幼児は地域の方々の触れ合いや自然環境とかかわりを通して、温かな心の交流ができたとともに、心に残る様々な体験を積み重ねることができた。保護者の方からは、地域の方の支援があって子どもが育っていることに感謝しているという言葉も聞かれるようになった。

今後も、園と地域が協同して園の活性化を図り、地域の実態に応じた特色ある取組を展開しながら、「地域で子どもを育てる」体制づくりを推進していきたい。

事業名

ふれあい・響き合い・育ち合い

目標

チャレンジ精神を養い、意欲的な子を育てる

1. 取組の視点

園周辺には、マンションや住宅の開発が進み他府県からの転入者が多く、近隣同士の人との触れ合いも少なく、人間関係が希薄で核家族である。そのため人と関わって遊ぶことの楽しさを共有しにくい状況である。地域の豊かな教育力を生かし専門性のある方と触れ合いながら、大勢の人と関わり一緒に遊んだり、様々な経験を積み重ねる中で、人の温かさに触れ自己発揮し人と関わる楽しさを味わい共に学ぶことにより、豊かな心を持ち生き生きと活動する幼児が育つことを目指して事業を進め、定着してきている。「お話こんにちは」「栽培教室」「サッカーを楽しもう」「作って遊ぼう」「陶芸教室」「お茶を楽しもう」は、みんなの大好きな活動である。

2. 取組の概要

<陶芸教室>

○ 陶芸教室のゲストティーチャーの方に陶芸のおもしろさや土粘土や油粘土の違いや接着の仕方など教えていただく。焼き物に完成すると園内作品展に展示し、地域の方や保護者・友だちに見てもらい、その喜びを味わう。



<サッカーを楽しもう> 随時

○ 最初はボールを使って体ほぐし体操をしたり、足でボールを扱う遊びをしたりしながら無理なくサッカーに親しむ。友だちとチームをつくりゲームをする。回を重ねる毎にルールもわかり、チームで協力してゴールしようとする連携プレーもできるようになる。行事参観している保護者からは、『力強く走ってゲームらしくなり



ました。』との感想も寄せられる。

<習字を楽しもう> 随時

○ 年長全園児が習字に親しむ。最初は筆でぐるぐるうずまきや波線など筆の扱いに慣れるところから始め『つ』『く』『し』とかく。



<栽培教室> 随時

○ 地域の方から野菜の育て方を教えていただく。野菜の世話や収穫の喜びを味わうなど、栽培教室で地域高齢者の方との触れ合いもする。収穫を楽しんだ後の畑を耕し次の野菜の準備もする。



<作って遊ぼう> 随時

○ 自然物の石や木ぎれ、ビーズなどの接着の仕方を教えていただく。また、『おもしろ実験教室』では、昔の火おこしや噴水など不思議世界に興味を持つ。



<お茶を楽しもう>

○ 日本の伝統文化に親しみながら、お抹茶や和菓子をいただいたりお茶を点たりする。最後にはお家元からお印もいただく。



<お話こんにちは> 随時

○ 教師とはまた違った口調やその方ならではの話の選び方で話に興味を持ち、お話大好き・絵本の大好きな子が増える。



3. 成果と課題

いろいろな活動を通して、子どもたちは生き生きわくわくしながら生活できた。